

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ワークブックなどの基礎的な問題には、意欲的に取り組むことができている。	毎日の朝自習や授業を大切にし、各教科の基礎的、基本的な内容の習得に意欲的に取り組むことができる。	「授業の内容がだいたいわかる」の「強く思う」と「そう思う」生徒を80%にする。			
課題 基礎・基本的な内容が定着していない生徒が多くみられる。また、既習の知識が系統的でないため、自分の課題や目的に応じて、聞いたりまとめたりする力や、論理的に説明する力に課題がある。	①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着を図る。 ②毎朝のセミナーで基礎的知識の習得を図る。 ③長期休業中の補充学習(質問教室)を実施する。	①家庭学習を「毎日1時間以上している」を50%以上にし、「全くしない」を0%にする。 ②毎日継続し、授業に合った進度を保つ。 ③長期休業中に3日～5日実施する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業中の発表にまじめに取り組んでいる生徒が多い。またレポート等をまとめたり自分の考えを書いたりする意欲がある。	読む・書くなど表現する活動に意欲的に取り組み、自分の考えをまとめたり、人に伝えたりできる。	「学習した内容をまとめたり、人に伝えたりできる」の「できる」を70%にする。			
課題 自分の課題や目的に応じて聞き取ったり、まとめたりする力、また必要な情報を選択し、筋道を立てて説明することが苦手である。	①授業の中で、生徒どうしが話し合い、考えた内容を発表する場面を積極的に設ける。 ②授業力向上の研修を行う。	①授業の振り返りを行う。 ②年間通じて授業参観(T.T)を実施。 ③「授業が工夫されていて楽しい」生徒を80%以上にする。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 自主学習ノート「がんばりノート」が定着しつつあり、家庭学習率にも若干の上昇がみられた。また、授業の準備物を用意する習慣も身につけてきている。	「がんばりノート」を自主学習や家庭学習に積極的に活用し、学習習慣を身につけ、自分の学習方法を確立することができる。また、2分前になれば自主的に着席し、授業の準備物を確実に用意することができる。	①「がんばりノート」の活用率90%を目指す。 ②「自主的に着席ができて」「授業の準備物を忘れないようにする」を90%以上にする。			
課題 「がんばりノート」の使用が形式化・非効率化し、必ずしも学力向上に直結しているとは言えない。授業中の集中力が続かない生徒や、課題を提出できない生徒がいる。	①定期的に「がんばりノート」コンテストを実施。 ②「2分前着席」ができるように指導する。	①定期的にノートのページ数調べを行い、ページ数が多いクラスを表彰する。 ②「始業時間とともに授業が始められるように工夫している」を100%にする。		評価	次年度における改善事項

平成30年度 学力向上ロードマップ

